

当院檀信徒の皆様

引越しや住居表示変更などで、連絡先が変わった場合は、速やかにお知らせ願います。



第10号

平成24年7月18日

真言宗豊山派 明王院(赤不動)
〒123-0851 足立区梅田4-15-30
TEL 03-3852-7378

京都へのお不動様お見舞い記

昨年三月の東日本大震災で被災し修理中の当院本尊・不動明王立像(感得不動明王像)のお見舞いのため、住職と檀徒総代の一行は、去る四月三日に、京都国立博物館内の財団法人美術院国宝修理所の工房を訪問しました。檀徒総代のお一人、相臺晟太郎様が見学記を寄稿して下さいました。

京博の裏門は、仏像の搬出搬入の専用門になっていて、そこから入門を許されると、すぐに岡倉天心の発案になる仏像の解体修理の部門が併設されていた。そこには、日本全国から世情の罪科を一身に受け止め背負い傷ついた本尊達が運び込まれ、ひとときの安寧を得て、さまざまな改修修理を受けている。

今回の僕の京博訪問は、檀家寺である明王院の御本尊不動明王(正式には感得不動明王)これは僕の独断だが、お大師さんが修行中に得た、即ち感得した不動明王のお姿とでも解すれば良いと思うのだが・・・が、一年前の震災により傷つき、ここに運び込まれ修理が施されており、それを檀家の代表として視察させていたことになった経過によるものである。

この修理部隊、対価を払えば何でも修理してくれるものではなく、その筋の専門家が後世に残すべき像であるや否を判断し、主として国宝重文を主体にそれを請け負っているのだが、明王院の御本尊は、まさにその価値ありとの御宣託が下されたって訳なのだ。

ご本尊、一年前の大震災により檀家を救わんと自ら前方に倒れ、迫りくる災害を震度五強に押し止め、依って御身足を損傷した、と僕は考えているのだが・・・その修理状況を責任者により、懇篤に説明を受ける。

今回の修復は、震災による破損部分だけではなく、併せて全体的な時代考証も行い、江戸末期に手が加えられたと思われる箇所、即ち御身足の開き具合など、平安後期作像の元のお姿に近づけるような改修も同時に施されるとか。

今後の主な予定

- 7月18日 施餓鬼会
- 9月20日~26日 秋のお彼岸
- 9月28日 護摩祈禱会
お札を申し受けます
- 11月1日 東京文化財ウィーク
都指定文化財・如意輪観音像を拝観頂けます
- 11月17日 感得不動明王像修復開眼法要
修復を終えたお不動様の帰山を記念して執り行う法要です

平成二十四年 年回表

一周忌	平成二十三年
三回忌	平成二十二年
七回忌	平成十八年
十三回忌	平成十二年
十七回忌	平成八年
二十三回忌	平成二年
二十七回忌	昭和六十一年
三十三回忌	昭和五十五年
三十七回忌	昭和五十一年
四十三回忌	昭和四十五年
四十七回忌	昭和四十一年
五十回忌	昭和三十八年

みちしるべ

「不動明王立像」(当院蔵)
※本尊とは別の像



身に遍して迦楼炎あるは、智火の金翅を表す(弘法大師著『不動尊功能』)
お不動様の身体の背後からは、カルダ鳥の姿に似た炎が出ています。カルダ鳥とはインドの神話に出てくる鳥で別名金翅鳥とも呼ばれ、毒竜を食いつくすのだとい

う。この呼び名通り、お不動様のカルダ鳥は、われわれの心にひそむ毒竜(煩惱(迷いや悩み))を焼き滅ぼしてくれる。われわれの考えや見方をゆがめたり曇らせたりの原因である煩惱をなくすことで、物事をありのまま素直にとらえ、どんなことにも真直ぐに智慧を働かせることができる。お不動様のカルダ鳥にあやかり、迷いや悩みの早期解消につとめたい。

は現在そのまま保存するのが適切との判断も下された。
火炎光背は当初のものではなく後付けされたものらしいが、これも後の修理で欠けた炎の部分が別の火炎に継ぎ足されたりと杜撰な処置がなされていたことが判明し、これも元通りに修復されるという。不動明王の立つ岩座も後付けのもので、お身体に比べて不自然に小さくいかにも安定を欠くものであったが、これは、時代考証を踏まえ尊像にあったものに新調して光背を嵌めこむ工夫をするとの考えが示された了解をした。

この修復場は、関係者以外一切の立ち入りが禁止されていて、新聞記者や美術雑誌の取材も許されておらず、信仰を集める対象を管理する場所としては宣なるかなと得心をした

次第であった。
ご本尊に別れを告げ、現在修理中の他の仏さまをも丁寧なる説明と共に見学できたのは、何という僥倖に巡り合ったものか。三十三間堂の千手観音は、既に八百体まで修理がすすみ、愈々二回り目の準備を計画中とか・・・三〇cmの近さで見るとその像の大きさにただただ驚嘆するばかりであった。
見学を終え、京博をまさに辞さんとする瞬間、遠雷と共に大粒の雹が降りだしたが、これに、我々の訪問に対する不動明王の挨拶と思い、暗い空を見あげれば、雲間に一瞬の稲光が閃いたのを確認した。

(関連記事と写真を次頁に掲載します)

こらえ

▼あの小沢一郎氏が最近あちらこちらの神社に参拝を重ねているという。私が目にした記事の見出しは「小沢一郎 苦しいときの神頼み」というものだった。▼国語辞典によると、「苦しいときの神頼み」という語句は、ふだん神仏を全く信じない者が苦しいときにだけ、神仏を頼り助けを求めるという意味があり、しかも、勝手なときだけ頼るといふ批判的なニュアンスがある。しかし私には、この語句が、「誰でもあっても、苦しいときは、必ず神仏を頼るものである」という、真理を鋭くついた言葉に思えるのである。▼誰でも、自力ではどうにもならない、困難な状況に陥ることがあるものだ。こうした状況でなぜ神仏に頼る心理が現れるのかというと、我々は個人の限界を自覚すればするほど、かえって、個人の限界を超えた神仏のはたらきに敏感になるためではないだろうか。▼苦しいのあまり神頼みすることがあれば、この経験を有難いきっかけとして、神仏との縁をいつまでも大切に保つよう心がけたい。人間関係同様、ふだんから良好な関係を築いてこそ、いざというとき頼れる神仏からのご加護が頂けるのだ。(R)

お不動様ゆかりの場所を訪ねて

住職と檀徒総代の一行は、前頁で紹介したお不動様(感得不動明王像)のお見舞いに先立ち、お不動様ゆかりのお寺、京都・歌の中山・清閑寺を参拝しました。このお寺は二百七十年前までお不動様が祀られていたお寺なのです。

清閑寺は、京都市東山区清閑寺歌の中山町にあり、延暦二十一(八〇二)年の開創以来千二百年以上の歴史をもつ古刹です。現在は真言宗智山派に属します。開創当初は天台宗に属し、東山山中に広大な寺域をもっていました。性盛和尚の乱を経てすっかり荒廃してしまいました。慶長年間に、焼き打ちされた根来寺より逃れた性盛和尚という僧侶が招かれて、清閑寺の再興に尽くしました。性盛和尚は、その後、豊山派総本山長谷寺初代能化の専誉僧正の後をつぎ、二代の能化となりました。

ところで、明王院に伝わる『感得不動明王由来記』(感得不動明王像の来歴を記した文書)によれば、性盛和尚はこれがお不動様に深く帰依しており、天正年間の焼き打ちの際には根来寺よりともに避難し、やがて和尚によって清閑寺に祀られるようになったとの記録があります。そして百五十年以上の寛保元(一七四一)年に縁あって明王院に譲渡され、以降、明王院の本尊として現在に至っています。

写真I~IIIは、それぞれ、清閑寺の山門、本堂の外観、本堂の内部です。また、写真IV、Vは、前頁で紹介した、お不動様の修理を行った美術院の工房のある京都国立博物館・文化財保存修理所の建物外観および建物内部(修理室内は撮影不可)です。



写真IV



写真I



写真II



写真III



写真V

お不動様修復ご寄進のお願い

前号、前々号でお知らせしたとおり、昨年三月の東日本大震災で被災したお不動様と安置する仏具の修理のための寄付金の募集を、昨年九月より実施しております。

一人でも多くの方々のお力添えをいただき、お不動様とご縁をしっかりと結ぶ機会にさせていただければと存じます。引き続きご賛同ご協力を謹んでお願い申し上げます。要領は左記の通りです。

記

(一) 一口五千円で何口でもお受けします。

(二) ご寄進は郵便局からの振替用紙による送金、寺務所への現金の持参、どちらも可能です。なお、送金のための郵便振替口座につきましては、今年十二月末まで開設しております。檀信徒の皆様には振替用紙を郵送しましたが、寺務所にも用意がございます。

(三) ご寄進いただいた芳名は志納簿に記すとともに、寄付額に記名し本堂(不動堂)内に掲示させていただきます。ご家族、親戚、知人をはじめ、赤ちゃんのお名前でも、ご供養を兼ねての故人のお名前でもお受けします。また、一度寄進された方がさらに追加でご寄進をなさっていただくことも可能です。

総本山全国檀信徒平成萬霊回向のおすすめ

この度、真言宗豊山派総本山長谷寺では、全国の豊山派檀信徒の皆様方と総本山と一層のご縁を結んでいただくため、「平成の全国檀信徒萬霊回向」の浄行を免願いたしました。

皆様方のご先祖をはじめ、ご縁の深い精霊各霊の戒名を総本山長谷寺の「萬霊靈簿」に浄書申し上げ、本尊十二面観世音菩薩ご宝前の霊廟に奉安し、日々供養を捧げて参ります。

ここに謹んでご案内、お勧め申し上げます。

記

(一) 萬霊回向 回向料
一霊につき五千円也

なお、五霊以上申込の方には、長谷寺本尊十二面観世音菩薩像画(御仏壇用)を授与いたします。

(二) 申込方法

所定の申込用紙にご記入の上、回向料を添えて、明王院までお願いいたします。

申込用紙は明王院にあります。遠慮なくお問い合わせ下さい。

(三) 申込期限

平成二十六年三月末日